



肢・病併置校 東京都立光明学園 学校通信⑭令和5年3月17日号

光明の学び

東京都立光明学園

校長 田村 康二郎

東京都世田谷区松原6-38-27

電話 03-3323-8421

母校「光明学園」の卒業生であることを誇りに！

今、光明学園における全ての学びを修め終えた皆さんに、学業成就の証「卒業証書」を授けました。高等部卒業をここに祝福します。明日から卒業後の生活が始まります。はばたきの日に際し、校長より特別授業「光明学」を贈ります。

1時間目は「日本史」の時間です。母校の歴史は、体が不自由だったり、病気と闘っていたりする子供達の教育の日本史そのものです。光明学園の歴史を振り返ってみましょう。昭和7年、日本で初めての体の不自由な子供のための公立学校「東京市立光明学校」が、港区南麻布で廃校寸前の古い校舎を再利用して開校しました。国内唯一の肢体不自由児のための公立学校には全国から入学希望者が殺到されたとのこと。実は、この学校ができるようにと先頭に立って運動されたのは、お医者様なのです。今の名称で言えば、東京大学医学部整形外科教室の初代教授として診療や医師の教育を行っていた田代義徳博士です。東大病院で診療する中で、学校に通えていない体が不自由な子供たちの存在を知った博士は、今の東京都議会に当たる東京市議会議員になって、熱心に学校設置を訴え続けたのです。残念ながらその提案は否決されてしまいました。しかし博士はあきらめませんでした。その後応援してくれる市議会議員の仲間を増やして粘り強く運動を続け、なんと可決に導いたのです。そして515事件が起きる程の不安な社会情勢の中、事件の2週間後に開校した光明学校が今に続き、皆さんが学ぶ光明学園に繋がっているのです。今も本校の卒業式に都議会議員の皆様が御臨席して下さるなど、熱心に本校を応援して下さるのは、そうした歴史の積み重ねがあるからなのです。その後児童が増えたことから昭和14年に現在の世田谷区松原の地に新校舎を建てました。以来この地を本校としています。昭和21年に国内初の中学部併設、昭和33年に国内初の高等部設置と発展し、全国に中・高設置が広がる契機となりました。そして今年は母体校開校から90年目にあたり、熱心に学ぶ学園生と熱意溢れる教職員の下、「医療的ケア推進」「言語活動に関する基礎学習や読書活動」「GIGA 端末の活用やアート活動」等、全国の

先頭を駆ける存在であることは今も変わりありません。

今飛び立つ皆さんは、完成したばかりの新校舎北棟で1年を通して学んだ初の卒業生です。光明学園の歴史の新しい1ページを皆さんが刻みました。

2時間目は「国語」の時間です。光明という漢字の成り立ちを確認しましょう。「光」の字は、人が両手で照明を頭上に掲げると、周囲を照らし出せることからできた象形文字です。「明」は、窓から月光が射し込んで床を照らし出す様から「明るい」の意味をもつようになったという解釈が最新です。

昭和7年、開校の際に永田秀次郎東京市長が入学者の将来の幸福を願って命名されたそうです。光明祭、光美展、光書展、光ホール、光ちゃん・明ちゃん。校章の中にも光と明が組み込まれています。分かりますか。このように本校では、光と明の二文字を大切にしています。校訓「学びの光、前途を照らす」にも光と日と月の字が入っています。さあ、どこでしょうか。

3時間目は「ホームルーム」の時間です。卒業後の新世界に飛び込んで夢中で過ごしている中で、急に母校が懐かしく思える時があることでしょうか。そうした時、懐かしの校舎で、懐かしの先生方や旧知の友と再会して旧交を温め、近況を伝え合いながら過ごせる機会があります。それを同窓会といいます。光明学園には母体校から続く「仰光会」という同窓会が活動されています。優しい先輩たちが学校を会場にして楽しい催しをしています。希望される方はご相談ください。

4時間目は「道徳」の時間です。皆さんは多くの人々の愛を受けて大切に育まれ、体力を養い、健康を維持しながら、日々の学びを積み上げ、門出の節目を迎えています。一人一人は誰にも代わることのできない尊い存在です。この学園で同じ志の学園生と学び合ったこと、多くの人々との絆を得たこと、学校生活で得た知恵と勇気を駆使して、人生の本舞台に登壇してください。そして**光明学園卒業生であることを一生の誇りとしてください。**

最後の授業を終わります。祝、卒業！

統括校長 田村康二郎